■キャラクター　ファイル　No.6

ロン　:20代男性/雇われ料理人

本名:ロンドベル＝カッツェ

■背景

私は5年前からこのホテルの料理人として、雇われている。

支配人であるジャックと、従業員のキャシー、その三人だけで経営している
とても小さなホテルだ。

ジャックとは親の代からの付き合いで、とてもよくしてくれるので感謝してい

一年前にキャシーがこのホテルで住みこみで働きだした。
彼女は持ち前の明るい笑顔で、たちまちホテルの看板娘的存在となった。

私はたちまち彼女に惹かれ、彼女に愛をうちあけた。彼女も喜んで承諾してくれた。
とても幸せな気分だった。このまま、変わらず三人で過ごしていきたい…そう願った。

「ジャックから、性的暴力を受けていたの」

ひと月ほど前、キャシーが泣きながら私のもとに相談しにやってきた。
とてもショックだった。あのジャックが……

その日からジャックを見る目が変わった。

彼の口から発する優しい言葉は、悪魔のささやきのように聞こえた。彼の笑い声はインプのごとく
下卑たものに感じた。

そして数日前、ホテルの前にこの山奥に似つかわしくない高級車が泊まっていた。
はじめはお金持ちの宿泊客がきているだと思ったが、どうやら様子がおかしい。

支配人室の前から脅しつけるような声が聞こえてくる。
身を隠して様子を見ていると、数人の男たちが出てきた。彼らはギャングのようであった。
ジャックはギャングともなにか繋がっているのだろうか？

以前の彼へのあこがれは地の底へ落ち、いまや最も憎むべき存在となっていた。

キャシーと二人だけで幸せに暮らしたい。いつしかそう願うようになっていたのである。

あなたのパワーポイント
7

※パワーポイントは、目的の証拠を手に入れる
ために必要になる可能性があります。

※このパワーポイントは各自で管理してください。

■事件のファイル

私は雇われ料理人だ。本日は午後からホテルに入り、いつも通り仕込みを終え、19時のディナーに料理を提供する。本日は鹿をメインとしたジビエ肉の料理だ。

■19:00 (11月1日)
ディナー開始の時刻だ。 既にテーブルには前菜が並べられているはずだが、私は副菜の品々そしてメインディッシュに取り掛かる。
配膳はキャシーとジャックに任せているので、私は厨房・食糧庫・ゴミ置き場を行き来するだけで、ここからは大広間の客の様子はよく分からない。

■20:30
メインディッシュを作り終えたが、ジャックもキャシーも厨房にやってこなかった。
仕方が無いので、私が自分で大広間に料理を提供しに行く。 大広間には客は二人しかいなかった。
ジャックもキャシーもどこに行ってしまったのだろう。

用意した料理は4つであったが、余った2つは仕方ないので厨房に引き下げた。

■21:00
キャシーが厨房にやってきた。 遅れてきた宿泊客が、大広間にやってきたのだという。
私は一度引き下げた、料理を1人分配膳した。
ジャックがどこにいったのか聞いたが、彼女も暫く見ていないらしい。

■21:30
料理をすべて引き下げた。あとは食器を洗い終えたら私の仕事は終わりだ。
キャシーがホールで酒をまだ提供しているが、そっち(グラス類の洗浄)は明日でいいだろう。
もったいないが、手つかずのディナー(1人分)は廃棄した。

本日の仕事を終えたので、自分用の夜食を用意しようと、食糧庫の冷凍庫から凍った生肉を取り出す。
するとその時、厨房の外で声がした。

■21:40
厨房を出た私が見たのは、ゴミ置き場へ駆け込むキャシーと、それを追いかけるジャックの姿であった。
彼らを追いかけゴミ置き場のドアを開けた時、ジャックはナイフを持って彼女に襲い掛かろうとしていた。

とっさに私は…手に持っていた冷凍生肉をジャックに投げつけた。
彼の頭にそれは命中し…彼は床に倒れ込む。どうやら気絶してくれたようだ。

私はキャシーに詰め寄り、何があったのか尋ねた…が… 彼女はうわのそらの表情でうすら笑みをうかべながら…「しんでしまえ…」と小さくつぶやいた。

なんとかキャシーを起こして彼女の部屋に連れて行く。

「ジャックから性的暴力を受けていたの…」 彼女の言葉が頭をよぎる。

■22:20
激しい怒りが頭の中に沸き上がった。私は厨房に戻り、ひときわ大きい包丁をとる。
ジャックと決着をつけなくては…

■22:30
ゴミ置き場に倒れていたはずのジャックの姿が見えない。隣にある小ホールへ移動したのかもしれない。
ドアを開けてのぞきこむと、案の定 彼の姿があった。頭を打った衝撃で朦朧としながら、よろよろと歩いていた。

私はその背中から忍び寄り、彼の心臓めがけて包丁を突き立てる。

ちいさなうめき声をあげた彼は、私にもたれるように倒れ…そのまま絶命した。

■22:40
コックコートに返り血がついていた。
私は厨房にもどり、奥の洗濯機にそれを放り込んで洗浄スイッチを押した。

■22:50
　私は焦燥の思いで、再びキャシーの部屋へ向かった。
彼女の部屋の前についた時、彼女がホールのほうから戻ってきた。先ほどの虚ろな表情では無かった。

「どうしたのロン? 酷い顔色よ?」
彼女が心配そうに訊ねる。
ジャックを殺害した事実を告白しようと思ったが、愛しい彼女のに迷惑を掛けたくない思いがよこぎる。

　結局何も言えずに私は自室へ向かった。

■23:00
　悪夢から逃げる思いで私はベッドに滑り込んだ。
明日になればジャックの死体を誰かが見つけるだろう。そしてその犯人が私であるという事はすぐに分かるはずだ。

眠れない時間がずいぶん流れた。

■4:30　(11月2日)
　部屋の外で足音が聞こえる…。こんな時間に誰だろう。
そっとドアの隙間をのぞくと、ひとりの男性が歩いているのが見えた。

　あの男性…見覚えがある…。よくこのホテルに泊まりに来ている…常連客…だったか…。
そういえば以前に彼は『自分が警察官だった』なんて話していたっけ…。

　こんな状況だからか…　そんな言葉だけ思い出される。

■6:00
　だれかの悲鳴で目が覚めた。昨晩よりは冷静になれた…気がする。

ぼんやりと昨日の出来事を考えてみた。

ジャックは…なぜキャシーを襲ったのだろう。　彼女は「性的暴力…」だなんて言っていたけれど、
冷静に考えて、あんな時間にあんな場所でナイフをもって襲い掛かるなんて普通じゃない。

数日前に見た、ギャング達…彼らとジャックの関係は?

このまま捕まる訳にはいかない…

ジャックが倒れている場所は私の仕事場だ。
例え私の持ち物や指紋があったとしても、不自然な事ではない。
凶器の包丁が見つかったとしても…だれかが厨房から持ち出したとシラを切ればいい。

私は昨日の犯行を隠し通し、隙をみてキャシーとこのホテルを逃げだす算段を考え始めた。

■ロンの情報
　①ジャックの死体について
　　ジャックの身体には無数の切り傷がついていたが、これは私がつけたものではない。
　となると…キャシーがつけたもの?
　　ジャックへの致命傷は最後に背中から刺した包丁だが、ジャックが仰向けに倒れたため
　包丁は隠れる形になってしまった。
　　回収するには、死体をひとりで持ち上げなくてならなかったため諦めた。
　だけど包丁なんて厨房にいくらでも転がっているし、そのすべてに私の指紋もついている
　であろう。誰かが厨房から持ち込んだとしてもなんの不思議ではない。

　②ジャックの人柄について
　　ジャックは年齢もだいぶいっているはずだが、優しく思いやりのある男で、かつては尊敬とあこがれ
　の対象だった。将来、自分もあのような人物になりたいと思っていた。

　③ホテルの共用部のエアコンは、支配人室のリモコンで一括管理されているが、深夜0時には
　全て落とされる。　※復旧は朝5時頃

■あなたの目的

自分が犯人であることを隠し通し、ホテルの秘密を解き明かそう

第1目標 勝ち点6	自分以外の人間を犯人として拘束する。

※最終投票で自分以外の人間が拘束される。

第2目標 勝ち点3	ジャックの過去につながる秘密を探そう

※エンディング時に、アイテム【キッシュの手紙】を持っている。

第3目標 勝ち点1	キャシーに愛の告白して、指輪を渡す。

※キャシーに告白をし、アイテム【指輪】を渡す。

■あなたの初期所持品　(自室に置いてある物)

① コックコート　…料理をするときに着用する真っ白なコート。3着ある。
② 報酬明細　…雇われ料理人として相場より高い金額が振り込まれている
③ 指輪　…キャシーに婚約を申し込む為 購入していた指輪。
④ 白いハンカチ　…なんの変哲もないハンカチ。

■あなたの固有アクション　(探索フェーズで使用可能)

●指紋の消去

アイテム【白いハンカチ】を所持している場合に使用可能。回数の制限はありません。

●効果…指定したアイテムからすべての指紋を消し去ることが出来ます。

※この固有アクションは探索フェーズで「固有アクション使用」と宣言をする事で使用できます。
固有アクションの内容を周囲に言う必要はありません。

※このアクションで使用できる対象は次の通りです。
①自分の所持品もしくは部屋にあるカード (公開/非公開を問わず)
②他人の部屋にあるカード(公開してあるものに限る)　※所持品は不可
③ホテル内にあるカード(公開してあるものに限る)
※情報のみのカード/(食品_液体_布)のようなものには、指紋はつきません。

■プレイのワンポイントアドバイス

今のロンはとても絶望的な状況だ。殺害された時刻のアリバイもなく、凶器も回収できていない。
計画性のない、突発的な行動ゆえに現場には証拠をたくさん残してきた。

だが、逆にいうと彼の所持品から直接殺人にかかわるものは少ない。
自分の持ち物をオープンにして潔白をアピールするのが良いかもしれない。

実は、昨日のうちにジャックの死体は見つけて…　だけど彼はこのホテルのオーナーだし誰にも
言えなくて…　そう打ち明けるのも良いかもしれない。

なんとかアリバイを証明できれば、周囲の目はあなたから離れていくだろう。